

# 鶏の改良増殖をめぐる議論のポイント

## 鶏の改良増殖の現状

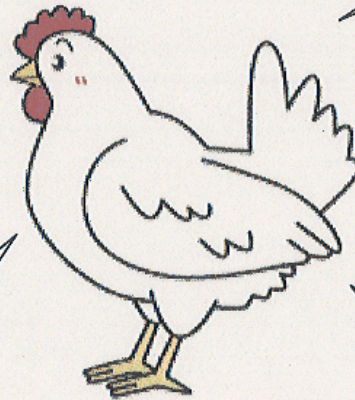
- ・わが国のコマーシャル鶏の大部分が、海外の育種資源に依存  
(卵用鶏 93%、肉用鶏 99%)
- ・国産鶏のシェアは低下

## 産卵性・産肉性だけの改良でいいのか？

- ・産卵量、産肉量等の伸び率は鈍化
- ・国産鶏卵・鶏肉として、わが国の消費・流通ニーズに的確に対応した改良が必要

## これ以上の能力向上は必要か？

- ・生産コストの低減、商品化率の向上等のため、飼養・衛生管理の改善だけでなく、遺伝的能力の向上が必要



## 国産鶏の改良増殖を強化すべきではないか？

- ・斉一性やひなの供給能力の問題等により、国産鶏の普及は停滞
- ・わが国の消費者ニーズ、気候風土に適応した鶏の改良・普及は重要
- ・地鶏等の改良は、国内の遺伝資源に依存

## 鶏の飼養管理・形態を見直すべきではないか？

- ・生産性、衛生管理の観点から、鶏の能力を最大限引き出すための技術開発が進展
- ・動物福祉の観点から、EU等においては従来型のケージ飼育を見直す動き

## 地鶏等特長ある系統の位置づけは？

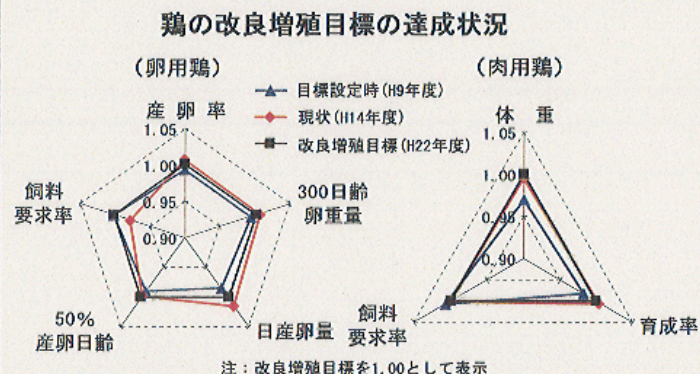
- ・都道府県では、地鶏等を活用した実用鶏の作出が主体
- ・品種・交配様式の違いによる能力差が大きい

# 鶏の改良増殖をめぐる情勢と今後の改良増殖の方向

## 現状と課題

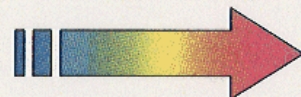
### 1 鶏改良の成果

- 産卵・産肉能力は改良増殖目標をほぼ達成し、その伸び率は鈍化



### 2 改良に関する課題と新たな検討事項

- 遺伝的能力の改良と飼養・衛生管理の改善による能力の向上
- 消費・流通ニーズに対応した品質の向上
- 卵質・肉質の統一的な評価法の確立
- 都道府県では、地鶏等を活用した実用鶏の作出が主体 → 地鶏等の位置付け
- 国産鶏の普及は停滞 → 国産鶏の改良増殖、普及体制の強化が必要



## 基本的方向

- 1 実用鶏としての目標を定め、改良を推進
  - 実用鶏として外国に対抗できるものとする必要
  - 特に品質面について具体的な方向性を示す
- 2 遺伝的能力の更なる向上
  - 卵用鶏：産卵率、飼料要求率
  - 肉用鶏：体重、育成率、飼料要求率
- 3 卵質・肉質の向上
  - 卵用鶏：卵殻強度、卵殻色、ハウユニット、肉斑血斑等
  - 肉用鶏：腹腔内脂肪量、食味関連形質(アミノ酸組成等)等
  - 品質に関する統一的な評価・改良手法の開発及び利用
- 4 地鶏等特長ある系統の造成・活用の促進
- 5 国産鶏の改良増殖体制の強化と普及の推進
- 6 鶏の飼養管理形態の見直しの検討

## 鶏の改良増殖をめぐる情勢と今後の改良増殖の方向

### 【現 状】

(総論)  
 ・純粋種(系統)を3元又は4元交配した実用鶏が主流

(改良)  
 ①能力  
 ・産卵能力、産肉能力ともに目標値をほぼ達成

②その他  
 ・都道府県では、地鶏等在来鶏を活用した実用鶏の作出が主体

・遺伝的な強健性の付与、飼養・衛生管理の改善等による育成率、生存率の向上  
 ・DNA育種の取り組み事例は少数  
 ・卵質・肉質の統一的な評価法は未確立

・国産鶏の普及は停滞

(消費)  
 ・鶏卵・鶏肉とも消費は伸び悩み  
 ・消費・流通ニーズの多様化、国産志向の高まり(鶏肉)

(生産)  
 ・飼養戸数、羽数が減少する一方、規模拡大は進展  
 ・需要に見合った計画的な生産の実施  
 卵用鶏羽数: 目標をやや上回って推移  
 肉用鶏羽数: 目標をやや下回って推移

### 【課 題】

(総論)  
 ・遺伝的能力の改良と飼養・衛生管理の改善による能力の向上  
 ・消費・流通ニーズに対応した品質の向上

(改良)  
 ①能力  
 ・産卵率、体重等の伸び率は鈍化

・卵用鶏については卵殻質及び卵内容の改良  
 ・肉用鶏については脂肪量の減少及び地鶏等特色のある肉質を有する系統の活用による品質の向上

②その他  
 ・地鶏等の位置付けの検討

・できるだけ薬に頼らない養鶏生産への取り組み

・DNA解析等新技術の活用による改良の効率化  
 ・卵質・肉質の統一的な評価法の確立

・鶏の飼養管理形態の見直し  
 ・国産鶏の改良増殖、普及体制の強化

(消費)  
 ・消費の維持・拡大を図るため、生産物の安全・安心の確保への取り組み

(生産)  
 ・需要に見合った計画的な生産

### 【基本的方向】

(総論)  
 ・実用鶏として外国鶏に対抗するため、特に品質面の目標をより具体化し、改良を推進

(改良)  
 ①能力  
 ・引き続き産卵・産肉能力、飼料要求率等経済的能力の向上  
 ・卵用鶏については、具体的には卵殻強度、卵殻色、ハウユニットの向上、肉斑血斑の減少等  
 ・肉用鶏については、具体的には腹腔内脂肪量の減少、アミノ酸組成等食味に関する形質の向上等

②その他  
 ・地鶏等特長ある系統の造成・活用の促進  
 (数値目標の設定は、品種・交配様式により差が大きい困難)

・引き続き遺伝的な強健性の付与、飼養・衛生管理の改善等による育成率、生存率の向上  
 ・DNA解析等新技術の開発及び利用の推進  
 ・品質に関する統一的な評価・改良手法等の開発及び利用の推進

・鶏の飼養管理形態の見直しの検討  
 ・国産鶏の改良増殖体制の強化と普及の推進